

子ども学科専門科目カリキュラムマップ(令和2年度入学生1年次科目)

ディプロマ・ポリシーに示す共通到達目標(学修成果)

観点	到達目標(学修成果)
1. いのちの平等、尊厳性への気づき	あらゆる存在が個人の価値観を超えて絶対的な尊厳性をもって存在することを理解している。
2. 生かされていることへの感謝	生かされていることへの感謝の心を持ち、他を生かす活動を実践することができる。
3. 倫理観	人として守り行うべき道について考え、それを実践することができる。
4. 知識・技能	社会生活を営む上で必要な幅広い知識を持ち、職業人として必要な技能を身につけて活用することができる。
5. 論理的で柔軟な思考と判断力	先入観や既成観念等に縛られず、論理的かつ柔軟に思考し判断することができる。
6. 自己表現力	自分の意見や考えを状況に応じた手段で適切に表現することができる。
7. 主体的な行動力	責任感・使命感をもって主体的に行動することができる。
8. 他者との協働力	社会を構成する一人の人間として、異なる価値観や背景を理解した上で連携・協働することができる。

ディプロマ・ポリシーに示す子ども学科到達目標(学修成果)

観点	到達目標(学修成果)
A. 倫理観	保育・幼児教育等の実践の場において必要とされる、人間の尊厳や人権を守ることができる倫理観を身につけている。
B. 知識・技能	保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を修得し、現代の保育者として必要とされる基礎的な実践力を持っている。
C. 論理的で柔軟な思考と判断力	保育・幼児教育等の実践の場に関わる子どもや保護者、地域社会の抱える課題や要求に対して、論理的かつ柔軟に思考して判断することができる。
D. 自己表現力	保育・幼児教育等の実践の場において、適切な手段を用いて他者に自分の意見や考えを表現することができる。
E. 主体的な行動力	保育・幼児教育等の実践の場において、自らの課題を発見し、課題解決や目標の達成に向けて主体的に取り組みすることができる。
F. 他者との協働力	保育・幼児教育等の実践の場で関わる他者と連携・協働して物事に取り組むことができる。

教育・保育の基礎的理解	カテゴリ	授業科目	授業概要	科目の到達目標	到達目標(学修成果)の観点番号・記号										
					凡例 ◎ DP達成のために特に重要な目標 ○ DP達成のために重要な目標 (一つの到達目標に◎と○一つずつを原則)										
					1	2	3・A	4・B	5・C	6・D	7・E	8・F			
		教育原理	本授業では、教育についての基礎的理解を深めるために、制度・歴史・思想・実践など教育をめぐる諸領域を横断的に学ぶとともに、教育・保育の現代的な課題を検討します。	1.教育・保育の目的・目標に関して基礎的な事柄を説明できる。 2.幼児教育・保育をめぐる思想や歴史、制度などの特徴を理解した上で説明できる。 3.現代の保育者や子ども、家族に関する諸問題を説明できる。			○	◎							
		保育・教育制度論	諸制度の歴史的な背景から現代にいたるまでのプロセスを概観した上で、制度的な課題や法律や制度の運用に関する特徴や課題について理解を深めます。また、諸外国の制度も取り上げながら日本の保育・教育制度について解説していきます。	1.教育・保育制度に関する基礎的な理解ができおり、説明できる。 2.幼稚園や保育現場において、法律や制度がどのように運用されているのかを説明できる。 3.幼児教育・保育をめぐる思想や歴史、制度などの特徴を理解した上で説明できる。				◎		○					
		社会福祉	社会福祉の基礎を学ぶ授業である。授業はテキストを中心に進めるが、必要に応じて別途資料を配付する。視聴覚教材の活用やグループワーク等も行いながら、社会福祉の理解を深めていくこととする。	1.現代社会および生活問題を理解し、「社会福祉とは何か」を説明できるようになる。 2.社会福祉の理念、対象、法制度、実践方法について説明できるようになる。 3.社会福祉専門職の役割と多職種連携について説明できるようになる。	◎					○					
		子ども家庭福祉	本講義では児童が抱える生活問題の本質とは何か、なぜ児童が社会福祉の対象となるのかを考え、そのうえで児童福祉の基礎を学んでいく。さらに、「子ども家庭福祉」と呼ばれるようになった児童福祉の現状と課題について考える	1.児童が社会福祉の対象とならざるを得ない社会的背景について理解する。 2.子ども家庭福祉の法体系と実施体制について理解する。 3.子ども家庭福祉に関わる専門職の役割と実践の意義を理解する。				◎	○					◎	
		保育原理	保育とは何か、保育・教育の理念、原理を検討するとともに、保育に関する法令及び制度を理解する。保育に関する日本や世界の歴史および思想、保育の現状と課題について概観する。	1.保育の意義、保育制度、保育の基本原則と方法、保育の計画の意義の理解 2.保育の思想と歴史の変遷(西洋と日本)の理解 3.保護者の子育て支援の理解及び保育の現状と課題についての考察			○	◎					○		
		社会的養護	社会的養護がなぜ必要なのか意識し、現場実践者にとって深い理解を求め内容については視聴覚教材等を使い理解を促す。	1.社会的養護における背景について理解する。 2.社会的養護における今日の動向について理解する。 3.社会的養護における課題について理解する。				○	◎		◎				
		乳児保育	乳児保育の意義・目的を理解し、多様な保育の場における乳児保育の現状と制度と課題を学習する。また、3歳未満児の発育・発達をふまえた保育の内容や方法を学ぶ。	1.乳児保育の意義・目的・役割等について述べられる 2.多様な保育の場における乳児保育の現状と課題が述べられる 3.発達をふまえた保育内容と方法が述べられる				◎	○						○
		保育の心理学	「ひとが育つ」ということを、発達心理学や教育心理学などの視点から紹介する。「社会性」「言語」「認知」「感情」「自己」などの発達について、基礎的理論から最新の研究まで、映像教材なども交えながら解説していく。またそれら知見の保育・教育実践への応用可能性についても考える。	1.保育・幼児教育実践に関わる発達理論等の心理学的知見を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2.子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子ども理解を深める。 3.乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。				◎		○					
		発達の理解と援助	保育の心理学で学んだ子どもの発達についての理解をさらに深く、その知識を実際に子どもたちと関わる場面や援助方法に活かせるように、子どもの発達を促す保育者の関わりについて実践的に考える。そのために、子どもたちの行動から理解し支援する方法や保護者との関わりからについても学ぶ。現場で活躍できるように、様々な視点からたくさんの方を案出できるようなワークを多く取り入れる。	1.保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2.子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3.子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4.子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。				◎	○						
		子どもの保健	心身の健康増進を図る保健活動野意義について学び、子どもの心身の健康状態の把握の方法や疾病に予防法や適切な対応方法について学ぶ。	1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を述べることが出来る 2.子どもの心身の健康状態の把握の方法が分かる 3.子どもの疾病予防と適切な対応が分かる				◎	○						
		子どもの健康と安全	子どもの成長発達を促す健康支援や安全を守るための方法、保健活を考える。また、子どもの健康問題や異常症状、緊急時の適切な対応方法の実践について学ぶ。	1.衛生管理、事故防止、安全対策、危機管理について具体的にわかる 2.異常症状・緊急時の対応方法について述べることが出来る 3.関連するガイドラインをふまえて保育における感染症対策について述べることが出来る				◎	○						
		子どもの食と栄養Ⅰ	栄養・食品・調理の基本的な知識を学び、各成長期の食と栄養の特徴を理解し、食物アレルギーや食事提供のガイドラインに基づき保育所の食について学ぶ。また食育の基本とその内容について演習を通して学ぶ。	1.子どもの健全な心身の発育と適正な食習慣づくりの重要性を理解する。 2.子どもを取り巻く食環境と食生活の課題を理解する。 3.食育の必要性と保育の場でのあり方を理解する				◎	○						○
		子どもの食と栄養Ⅱ	子どもの食と栄養Ⅰの学習内容を調理実習や食育計画演習によって実践する。各成長期における子どもの適正な食事や対応を学び、食物アレルギーや保育所での食事提供のガイドラインを踏ま	1.基礎知識をもとに適切な子どもの食を提示できる。 2.保育者としての食支援の役割や意義を理解する。				◎		○					

		え、保育者としてできる食を通した子育て・子育て支援を考える。	3. 子どもの望ましい食生活やその支援について保育の場で実践する力を高める。						◎	○		
教育・保育の内容と方法	子どもと健康	領域「健康」を中心に5領域のねらい及び内容を理解したうえで、小学校教育に繋げるための子どもの健康をテーマにした教材研究と教材づくりを行う。また、心身ともに健康な生活を送るために、保育・教育現場で子どもと楽しみながら取り組める運動・表現遊びの体験をとおして、保育指導・援助法について知識と指導方法を習得する。	1. 領域「健康」を中心に5領域のねらい及び内容を理解している。 2. 小学校教育に繋がる健康をテーマにした教材研究と制作ができる。 3. 研究発表やグループワークにおいて主体的に取り組むことができ、領域「健康」を中心に領域を活かした保育指導ができる。						◎	○		
	子どもと人間関係	子どもの健全な心身の発達においては、子どもたちを取り巻く周囲の他者(家族・保育者・友だち・地域社会等)との良好な関係づくりが不可欠となる。本授業では、子どもの周囲と関わる力の育ちを見守り、適切な指導・支援を行なう上で必要となる知見や、領域「人間関係」関連事項を幅広く取りあげ、事例検討・プレゼンテーション、映像資料視聴なども通し保育実践的理解を深めていく。	1. 領域「人間関係」に基づく、乳幼児における人と関わる力の育ちに関する専門的事項について知識を身に付ける。 2. 乳幼児期における、子どもを取り巻く人間関係に関する現代的課題を理解し、子どもの人生を支える周囲と関わる力の発達について関係発達論的視点から理解する。 3. 事例検討等を通じて、領域「人間関係」に基づく保育実践へつながる知見を深め、学習者自らの考えを表明する。						◎	○		
	子どもと環境	領域「環境」において幼児を取り巻く環境の把握、発達に関する事項について学ぶために、様々な映像教材や校外学習、グループワークなどを通じて理解を深める内容とする。	1. 乳幼児を取り巻く環境を主体的に学び、保育の専門性を高める。 2. 領域「環境」に関する乳幼児の課題を論理的に判断し、表現することができる。 3. 領域「環境」で学んだ内容を共有し、協働しながら新たな課題を理解する。						◎	○		◎
	子どもと言葉	乳幼児期における「言葉」の発達過程について学び、保育者としての援助の方法について実践を通して具体的に考える。絵本の読み聞かせなど保育実践に活かせる基礎技術を養う。	1. 言葉への興味関心、気づきなどの感覚を高める。 2. 言葉の発達過程について理解し、保育者の役割や援助について理解する。 3. 児童文化財について知識を深め、読み聞かせなど基礎技術を習得する。						◎	○		
	子どもと表現(音楽)	領域「表現」に関して、本科目では音楽との関わりから子どもの表現の姿や発達及びそれを促す要因について理解する。また子どもの感性や想像性を豊かに育むための音楽表現遊びや環境の構成などの専門的事項について、個人やグループでの体験・観察・分析により修得する。	1. 子どもの表現の姿やその発達を音楽との関わりから理解する。 2. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学び、感性を豊かにする。 3. 基礎的な知識技能を生かし、子どもの音楽表現活動に展開させることができる。						◎	○		
	子どもと表現(造形)	子どもの造形基礎で獲得して造形活動の基礎技能や表現力、想像力、感性を活かしながら、より発展的な造形活動ができるように応用的な課題に取り組む。また、その過程の中で、ものごとを自ら感じ、考えて表現する能力を養い、感性を豊かにする観点から造形表現に取り組む。なお、ICTを活用し、活動内容に関する事例の紹介および映像資料を活用しながら具体的に説明する。	1. 表現する楽しさや喜びを知り、自分らしく作品制作に取り組む。 2. 幼児の表現と発達を理解し、表現力・想像力・感性を豊かにすることができる。 3. ICTを活用し、活動内容を記録することで学習内容を視覚化することができる。						◎	○		
	保育内容総論	①保育内容の基本構造について各領域と全体的関連について実際上の内容と理念・構造の理解を深める。②とりわけ「遊びを通して」ということの原点的意味を具体的実践資料に基づいて論ずる。	1. 保育の内容について実際と理念を総合的に理解する。 2. 実際の保育実践を資料にして自己の保育内容観を深める。						◎	○		
	保育内容一言葉	子どもの言葉の発達を知り、保育者として言語指導や援助の方法について理解を深める。子どもの遊びや生活の中で、豊かな言語活動を促すための保育の方法を考える。児童文化財を生かした取り組みの意義を理解し、体験を通して知識と技術を学ぶ。	1. 子どもの言葉に関心を持ち、言葉の発達について理解する。 2. 保育者としての役割と援助方法について理解し、保育の方法を考慮することができる。 3. 様々な児童文化財について理解を深め、保育実践に活かせる基礎技術を習得する。						◎	○		
	音楽表現技術Ⅰ	保育実践における音楽表現技術の基礎Ⅰを習得するための授業。主に一斉授業とピアノ実技レッスンを45分ずつ受講する。一斉授業では、楽典、ソルフェージュによる読譜・記譜・聴取の方法、子どもの歌の歌唱法の基礎を学ぶ。実技レッスンでは、経験度に応じた個人・グループレッスンにおいて、ピアノ演奏技術や子どもの歌弾き歌いの基礎を学ぶ。	1. 楽典を理解する 2. 読譜・記譜・聴取の基礎を習得する 3. ピアノ演奏技術の基礎を習得する 4. 子どもの歌弾き歌い技術の基礎を習得する						◎	○		
	音楽表現技術Ⅱ	保育実践における音楽表現技術の基礎Ⅱを習得するための授業。一斉授業と実技レッスンを45分ずつ受講する。一斉授業では保育実践との関連から楽典、ソルフェージュによる読譜・記譜・聴取の方法、子どもの歌の歌唱法を習得する。実技レッスンでは、経験度に応じた個人・グループレッスンにおいて、保育実践との関連からピアノ演奏や子どもの歌弾き歌いの技術を習得する。	1. 保育実践との関連から楽典を理解する 2. 保育実践との関連から読譜・記譜・聴取の基礎を習得する 3. 保育実践との関連からピアノ演奏技術の基礎を習得する 4. 保育実践との関連から子どもの歌弾き歌い技術の基礎を習得する						◎	○		
造形表現技術	保育者に必要とされる造形技能や表現力を修得し、子どもの造形遊びについて学ぶことを目的とする。実践活動としては保育現場で行われている造形遊びを幅広く取り入れ、平面造形、立体造形、応用表現の三つの視点から基礎演習に取り組む。また、基礎演習の過程を、ICTを生かして記録し、振り返ることによって造形基礎力を高める。	1. 保育者として必要な造形技能や表現力を身につける。 2. 表現する楽しさや喜びを知り、自分らしい作品制作に取り組む。 3. ICTを活用し、活動内容を記録することで学習内容を視覚化することができる。						◎	○			
子どもとあそび	保育に活用できるあそび・言葉・技術等に関する知識や技術を学ぶ。	1. 子どもの発達と絵本、紙芝居、パネルシアター、紙皿シアター、言葉あそび等に関する知識と技術を学ぶ 2. 子どもがあそびを通して学ぶことについての理解 3. 子どもの経験や様々な表現活動を結ぶあそびの展開、についての知識と						◎	○			
総合	ゼミナールⅠ	スタートアップゼミナールの発展科目として、少人数での演習授業を通して、保育や幼児教育に関する課題探求を行う。子どもを取り巻く様々な課題、話題に目を向け、他者と協働して発表、討論、考察を行う。	1. 保育や幼児教育に対する関心を高め、課題に主体的に取り組むことができる。 2. 課題の探求・解決において、思考・判断・表現する力を身につける。 3. 多様な人々と協働することを通して、集団の中で求められる行動ができる。						◎	○		◎
	キャリアスタディ	子ども学科学生の就職活動に必要な知識・技能、キャリア意識形成の習得に向け、学内キャリア支援委員によるガイダンス、学外講師による講演会、ゼミアドバイザーによる個別指導など様々な側面から授業を展開する。	1. 子ども学科学生の就職活動において必須となる基礎的な知識・技能の理解と習得。 2. 子ども学科の学修成果を活かしたキャリア形成への意欲・意識の向上。 3. その後の主体的かつ円滑な就職活動へ繋げること。						◎	○		◎
教育・保育実習	教育実習Ⅰ	幼稚園における教師の役割や仕事内容概要、子どもの発達の実態を実践的に学び、2年次に実施する教育実習Ⅱの基礎を培うことをねらいとする。	1. 幼稚園の教育内容・機能・園生活の流れについて理解する。 2. 幼児の発達や幼稚園教育の実態に触れながら援助のあり方を学ぶ。 3. 幼稚園教諭の職務内容及び役割等を把握し、幼児教育への関心を深める。						◎	○		◎
	教育実習指導(1)	教育実習の心得や望ましい実習態度について学ぶと同時に、実習にあたって幼稚園教育要領の理解、環境を通して行う教育、幼児理解、幼稚園教諭の職務等理解を深める。以上の目的において、日誌や計画の立案、振り返りについて学修する。	1. 幼稚園教育の基本、目的、幼児の発達、園生活の流れ、幼稚園教諭の職務を理解する。 2. 教育実習の意義や目的を理解し、自己課題を明確にする。 3. 幼児教育者として保育観、教育観を構築する。						◎	○		◎
	保育実習Ⅰ(保育所)	保育所の実態・保育内容・保育技術を実践的に理解しながら、乳幼児理解を深め、保育士の職務について学ぶ。	1. 保育所または施設の機能・保育内容・園生活の流れについて、実践を通して理解する。 2. 乳幼児と関わる中で一人ひとりを理解し、援助・指導の在り方を体験的に学ぶ。 3. 保育士の専門性に触れながら保育士の職務内容及び役割、チームワークなどを把握し、体験を通して保育への関心を高める。						◎	○		

			4. 保育士や乳幼児と生活を共にし関わる中で保育技術を習得しながら将来の保育士としての自覚を高める。							○		◎	
	保育実習指導Ⅰ-(1)	保育所の目的、保育士の職務、乳幼児の発達などを理解することにより、実習の目的や意義を学ぶ事をねらいとする。加えて、実習の心構えや望ましい実習態度についても学習する。また、実習終了後に、実習を振り返ることにより、実習の成果と今後に向けての課題を認識することも併せてねらいとする。	1. 保育実習Ⅰの意義・目的・内容を理解し自己課題を明確化する。 2. 実習における観察・記録・実践の方法及び心構えを主体的に取り組み理解する。 3. 実習後の総括及び自己評価を通して、新たな課題を明確化する。							○		◎	
レクリエーション	レクリエーション理論	講義を中心に、演習やグループワークを通してレクリエーション・インストラクターに必要な知識を習得する	1. レクリエーションを体験し、対象者に合わせたレクリエーションを実践することができる。 2. レクリエーション支援者として基本的なコミュニケーションの重要性を理解している。 3. レクリエーション支援の特色を理解している。							◎		○	
	レクリエーション実技	レクリエーション支援者として「遊び」を意図的計画的に活用する 考えやプログラム立案、支援技術について学ぶ。実技でさまざまなレク活動を体験し、理論で意義や価値についての 専門的な知識をつけ、演習を通して相互評価しながら技術を身につける。また、コミュニケーションワークを通して、自分と対象者との良好な関係づくりや、対象者間のスムーズな交流促進に役立てるノウハウを学習する。	1. レクリエーション活動の習得 2. 効果的に活用する技術の習得 3. コミュニケーションスキルを身につける			○	◎	○				◎	
	現場実習	レクリエーション各科目で学習した理論と実技をもとに、レクリエーション協会主催の事業、地域の子供会活動、高齢者や障害者へのボランティア活動等に参加する。地域社会の人々と交流を重ね、スタッフやリーダーとして積極的に支援できるように取り組む。	1. 地域で行われるレクリエーション事業の実習を通し、楽しむことの大切さを理解している。 2. ニュースポーツやレクリエーションゲームを主体的に実践することができる 3. 実践後は振り返りを行い、期日までにレポートを提出できている							◎		○	
											◎		○
											○		◎
											○		◎